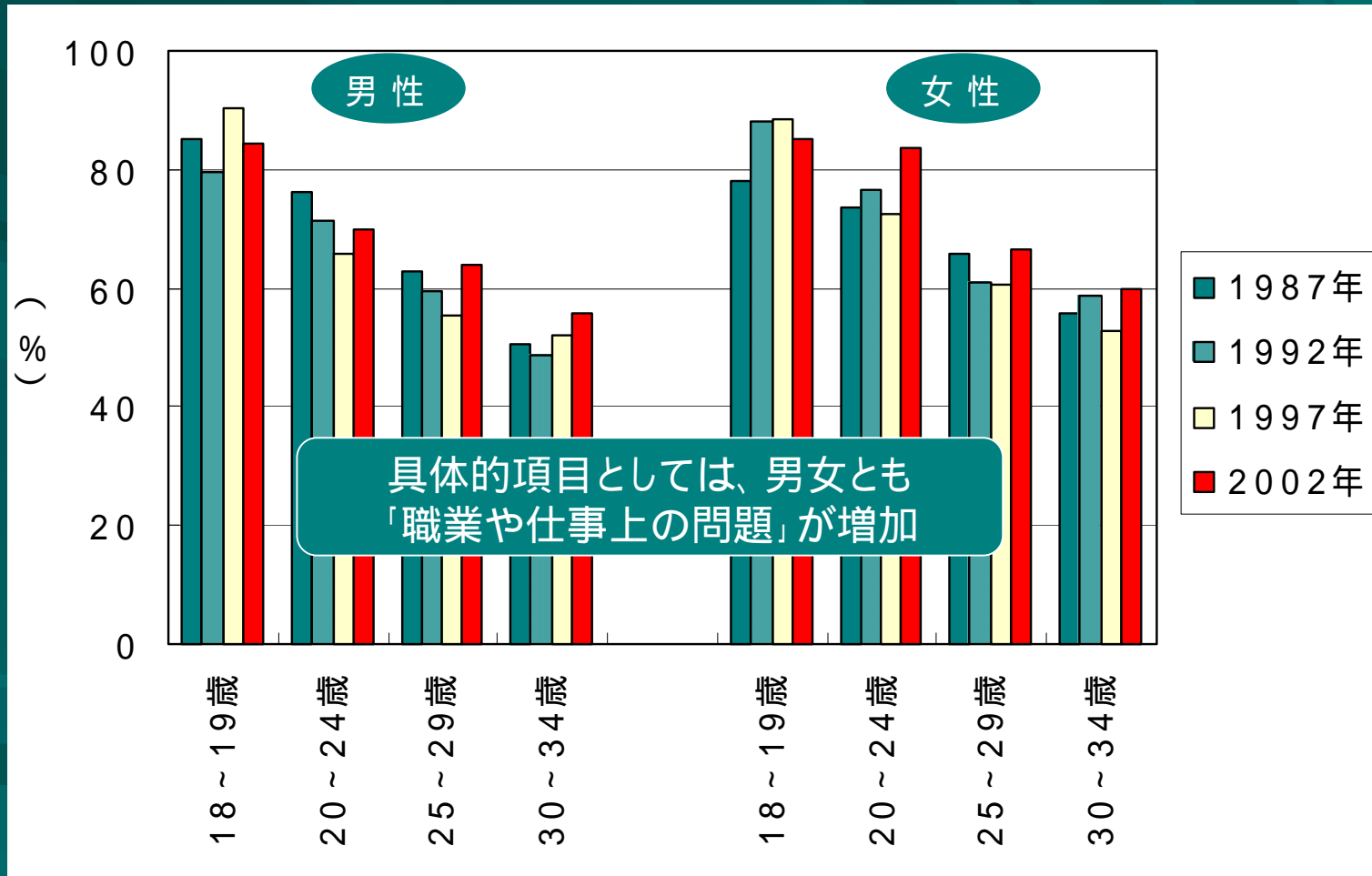
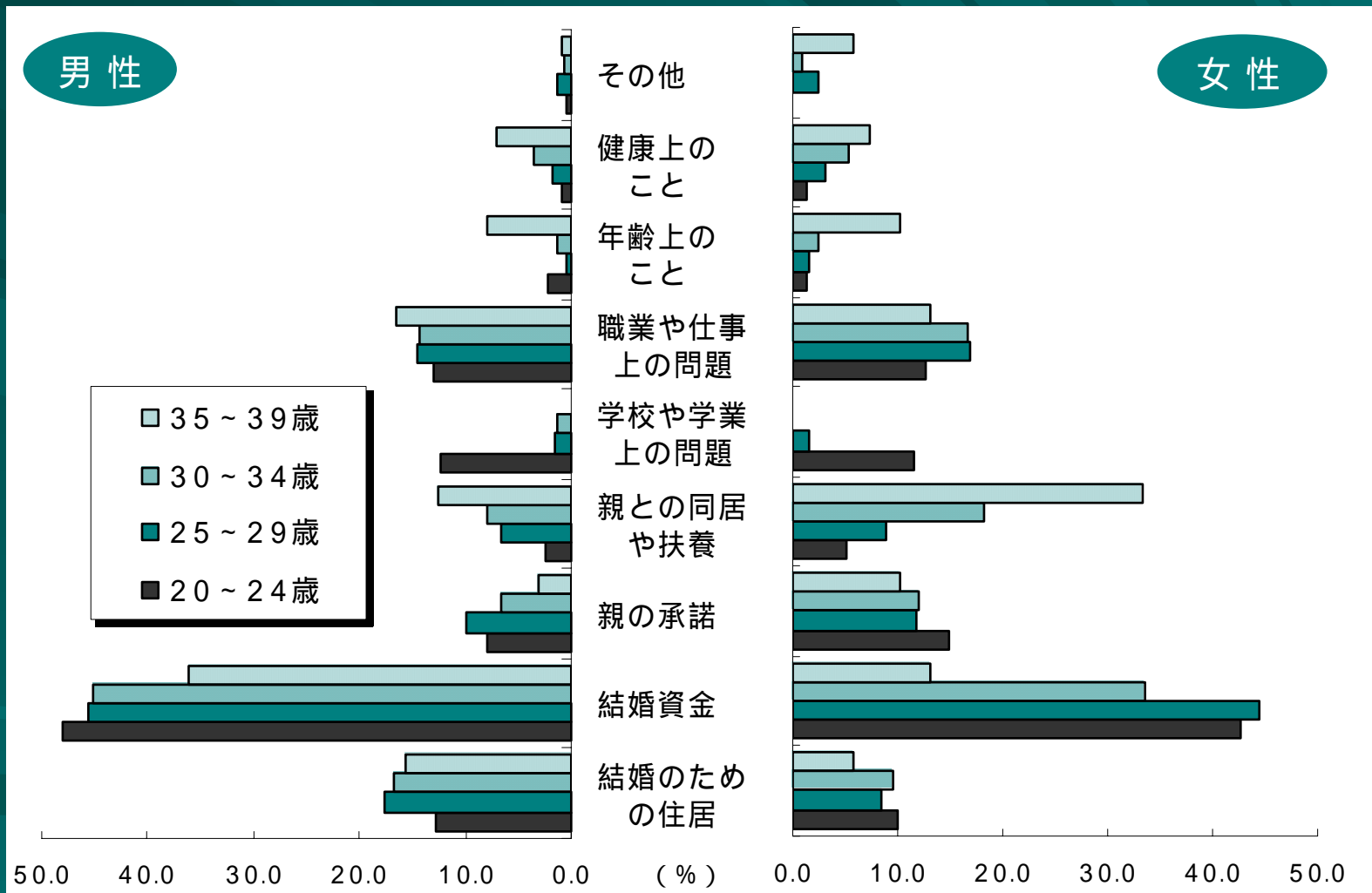


1年以内の結婚に障害があると答えた者の割合 (一年以内の結婚意思と交際相手を持つもの)



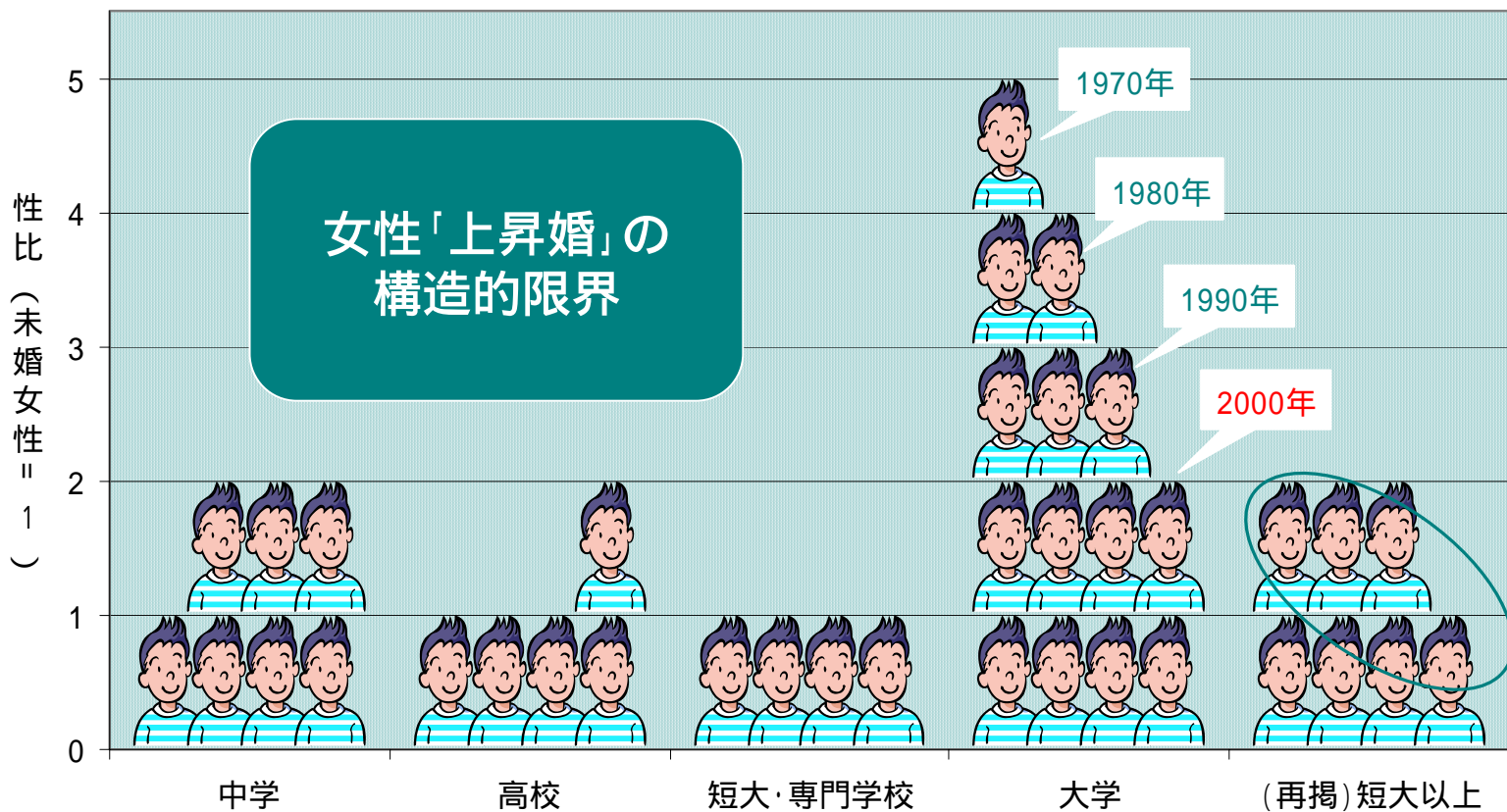
年齢別にみた結婚の障害



結婚できない？

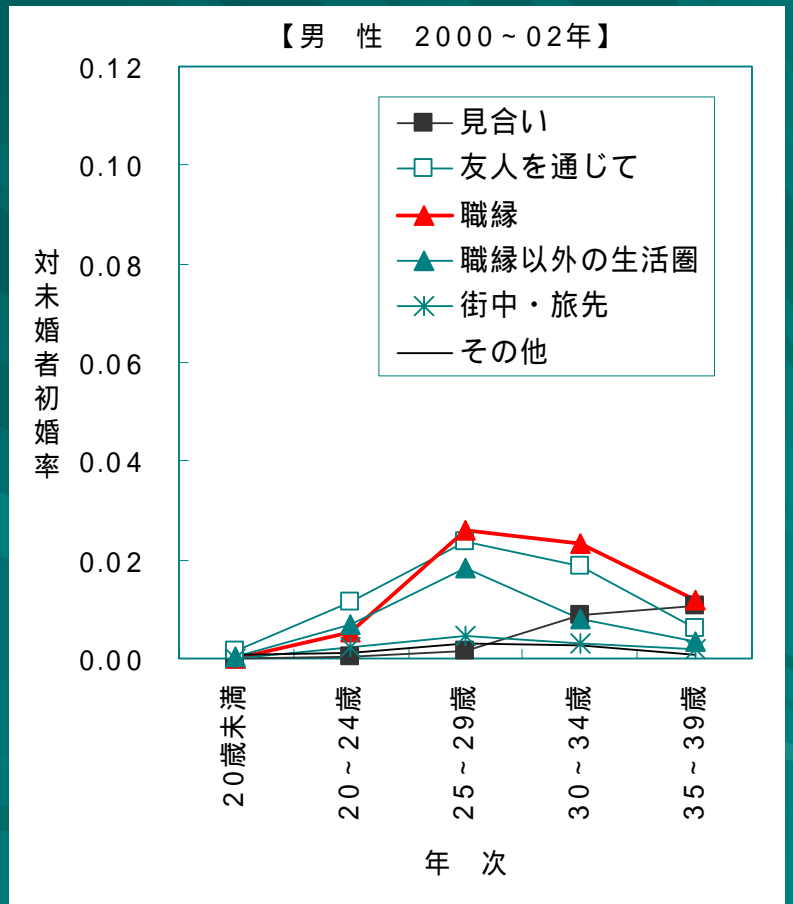
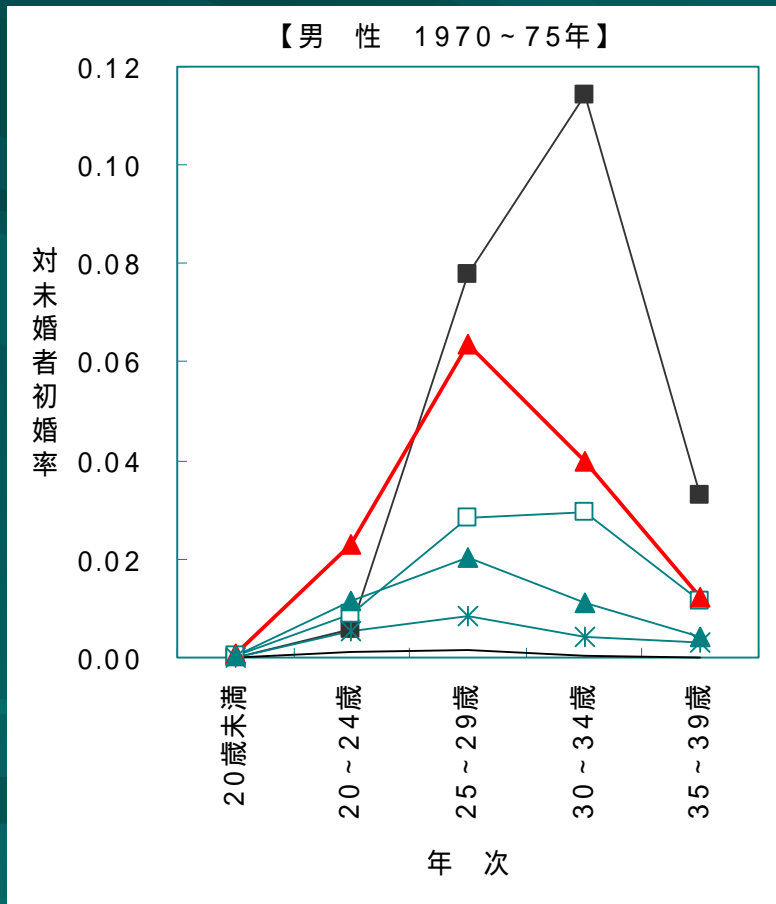
- 1年以内に結婚する場合に、何らかの障害があると答えた割合が、2000年をまたいで増加。増加したのは男女とも「職業や仕事上の問題」。
- 年齢によって異なる障害。20代では「結婚資金」、30代では「仕事」(男性)、「親の扶養」(女性)。

学歴別にみた未婚男女の性比： 年齢25-29歳、1970年～2000年

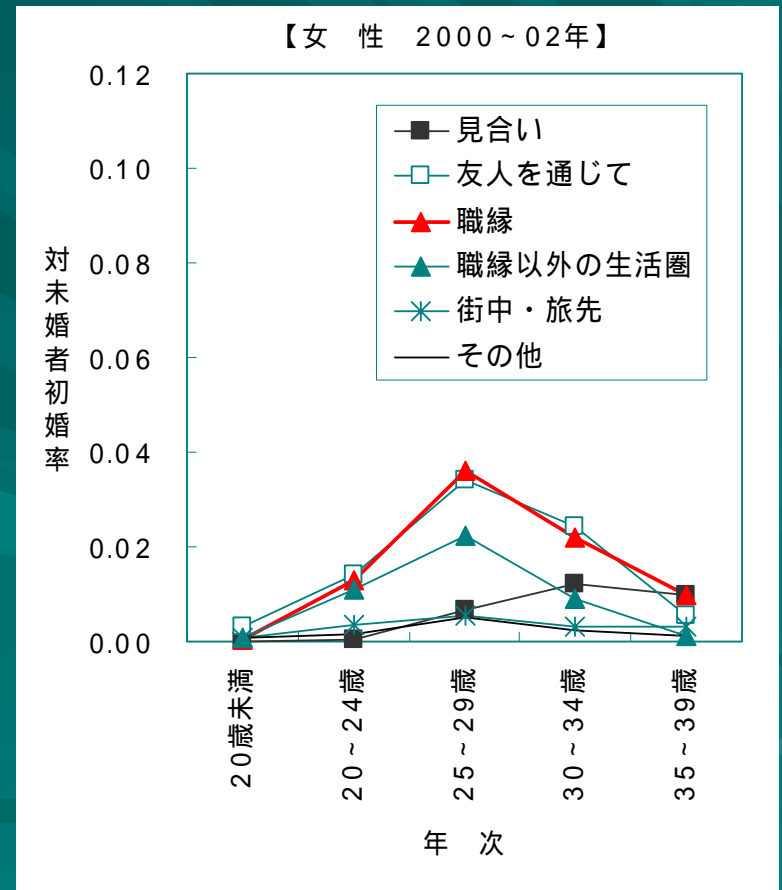
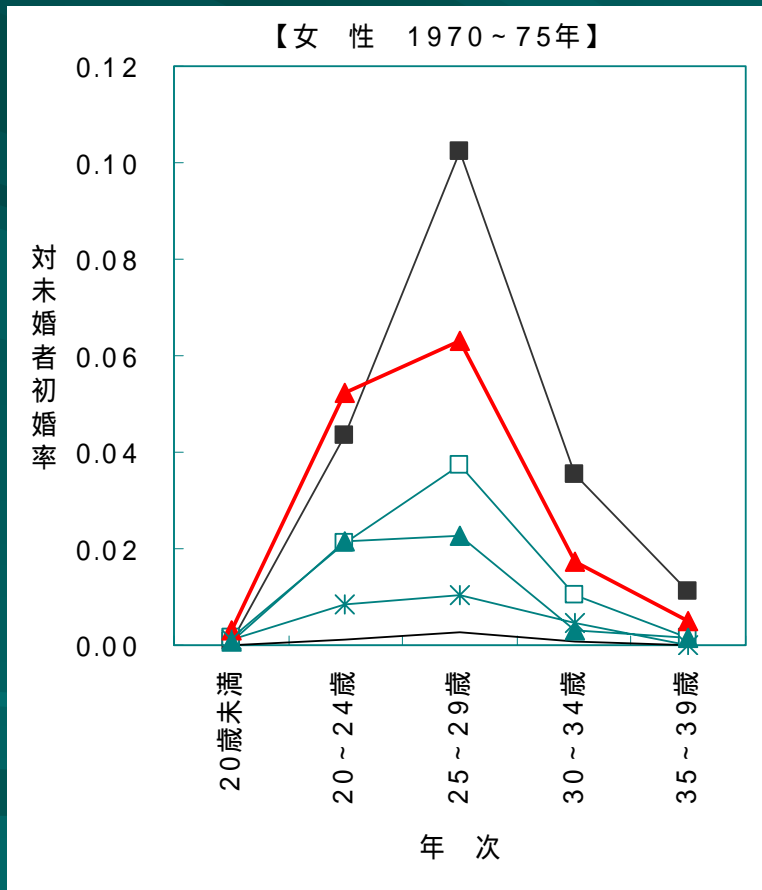


国勢調査より作成 (Raymo and Iwasawa 2005)

出会いのきっかけ別に見た 年齢別対未婚者初婚率(1970年代 vs. 現在)



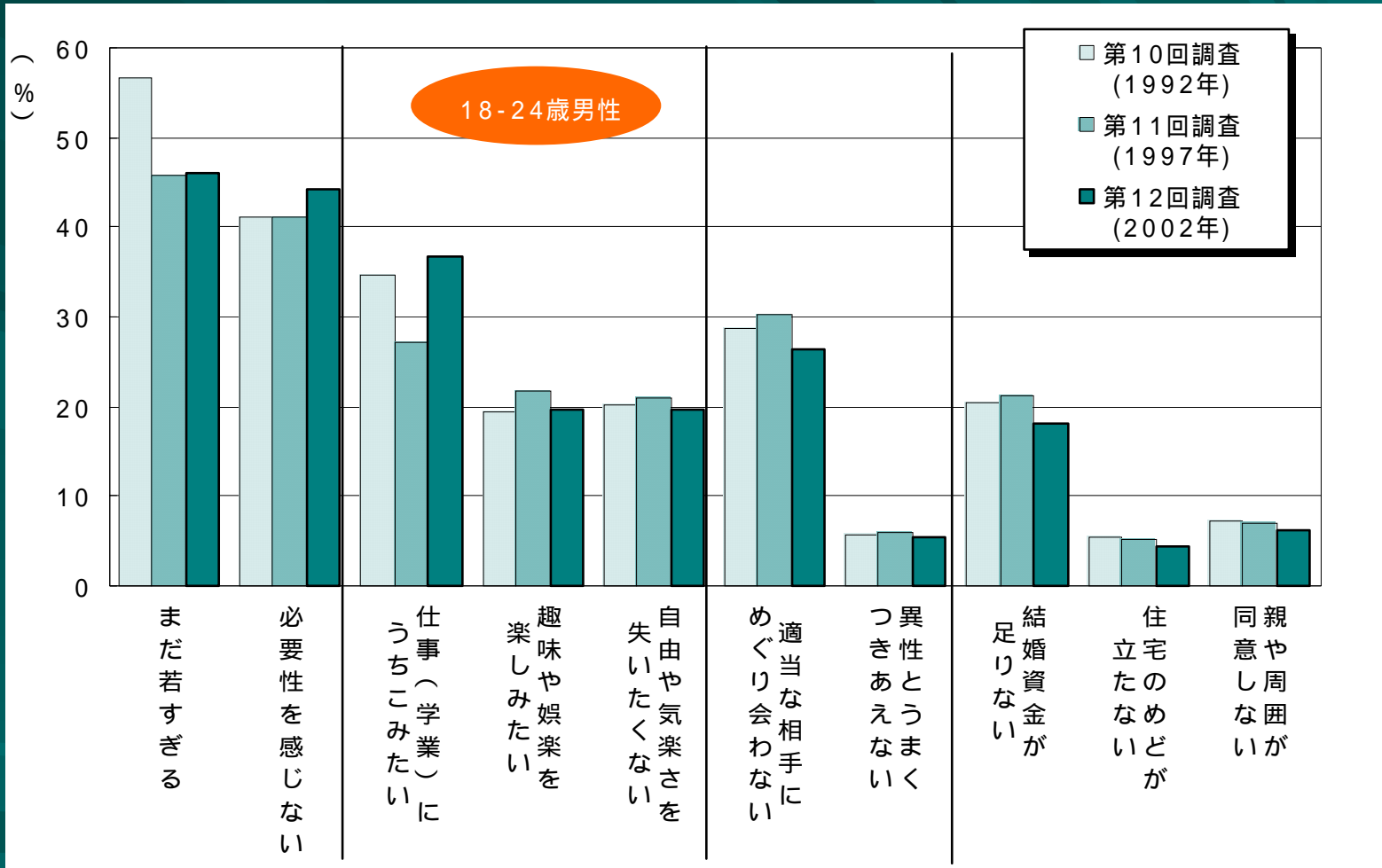
出会いのきっかけ別に見た 年齢別対未婚者初婚率(1970年代 vs. 現在)



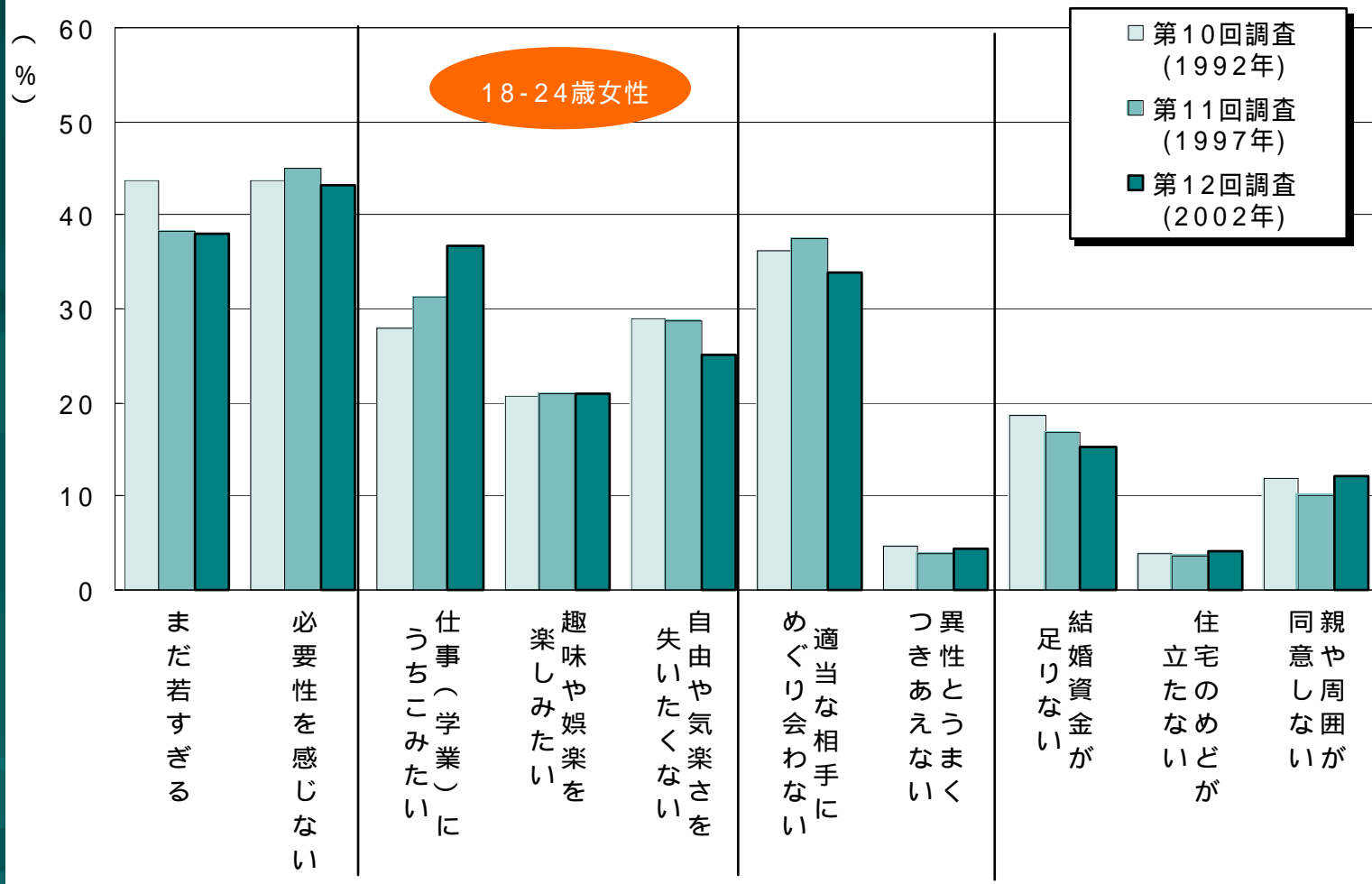
相手がいない？

- 「上昇婚」を期待する高学歴女性の相対的結婚難（ミスマッチ仮説）。ジェンダー非対称の配偶者選択基準の存続？（米国では変容）。
- 20代後半～30代独身男女のマッチ・メーカーとして機能していた見合い文化の衰退と職場環境の変容。出会いの場は従来の生活圏に限られている。

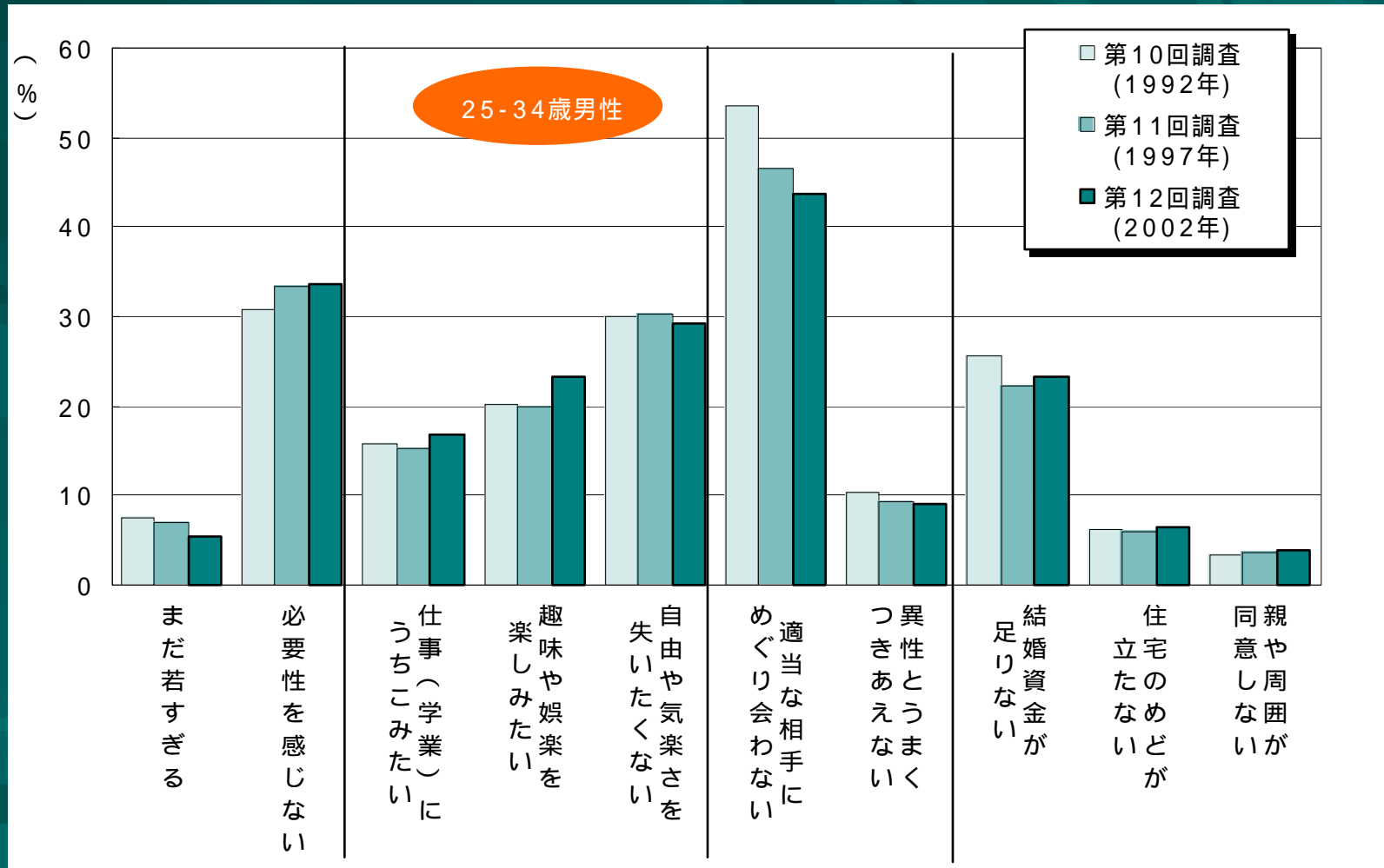
独身でいる理由(20代前半)



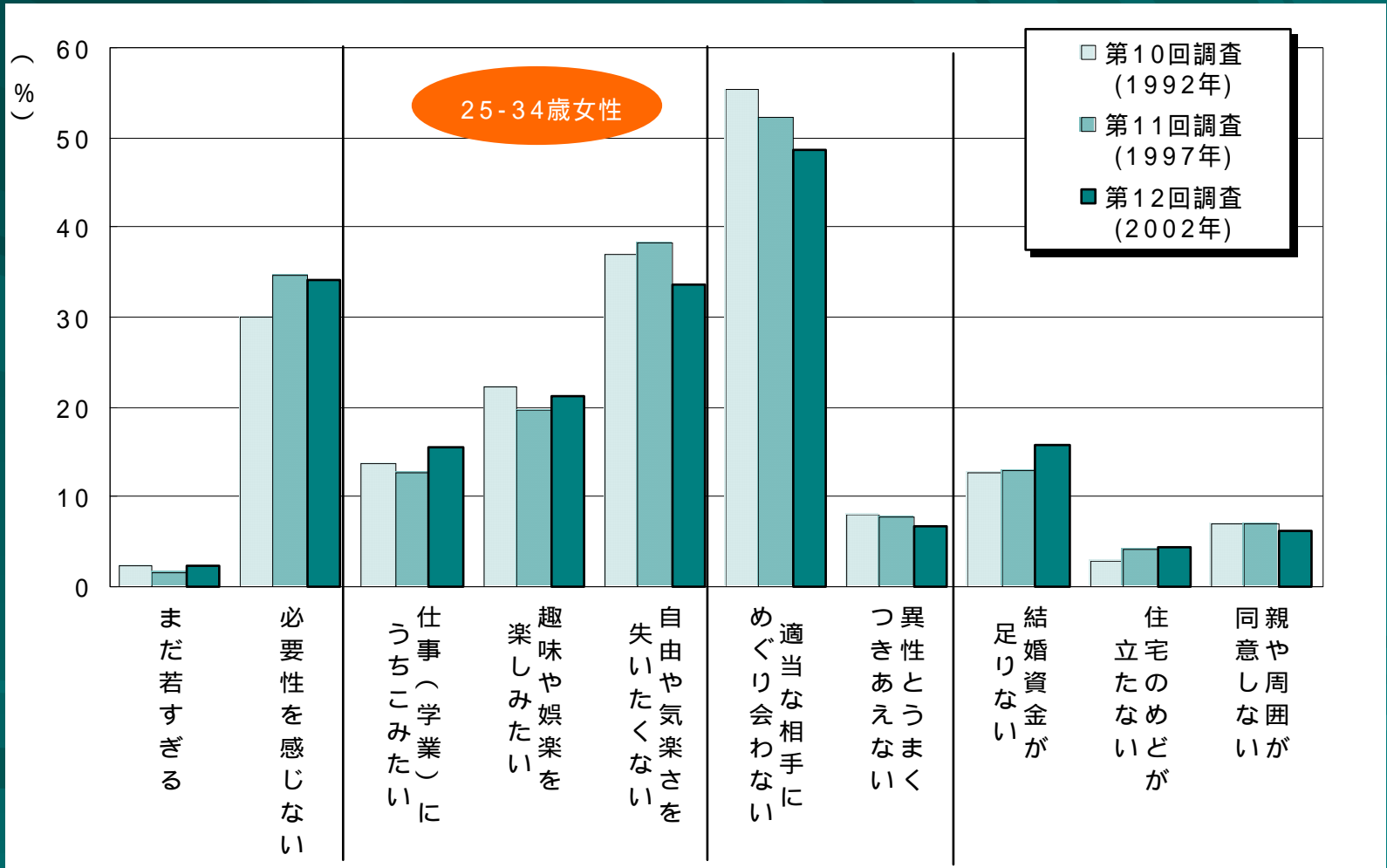
独身でいる理由(20代前半)



独身でいる理由(20代後半)



独身でいる理由(20代後半)



独身でいる理由(相対的重要度)

- 20代:「必要性ない」「仕事・学業優先」
- 30代:「適当な相手の不在」「必要性ない」「気楽」

結婚生活と仕事・学業はなぜ競合するのか？

結婚生活に優先する「仕事・学業」「趣味」の追求は
今後も続くのか？

独身の気楽さは続くのか？

相手に期待する条件は今後変わらないのか？

出会いの機会は創出できるのか？